

中山道おしながき①

上松宿



編集・印刷:上松観光開発有限会社

画像提供:上松町、上松町観光協会



上松宿は、中山道六十九次のうち38番目にあたる宿場でした。東には木曽駒ヶ岳がそびえ、西には良質な木曽ひのきを産出する丘陵地帯が広がります。中山道は町の中央を木曽川に沿って南北に通り、木曽八景に数えられる絶景のうち、実に5つを楽しむことができます。

木曽は江戸時代に木材業が盛んな地域となり、上松にも当時の墨田区付近と同等の人口が集まっていたと伝えられます。また江戸時代末期には、天皇家から将軍家に嫁いだ皇女和宮が辿った道としても知られています。この時、東海道ではなく中山道を選んだ理由のひとつに、福島、馬籠(孫の目)などと並び、上松も「縁起の良い地名の一つ」として挙げた、との説があります。

上松町は、1889年に上松村、小川村、荻原村が合併して駒ヶ根村を形成、1922年に上松町に改称して誕生しました。この頃には国鉄中央線や木曽森林鉄道小川線が開通し、木材集積の拠点として盛況を誇っていました。しかし1950年5月に600棟以上をなめ尽くす大火が発生、中山道当時の町並みはほとんど消失してしまったと記録されています。

現在、中山道の面影を残す町並みは、上町地区、寝覚地区、荻原地区、立町地区の一部などです。北から杓掛、本町、荻原、倉本の4か所に一里塚の跡があります。

(写真は、大正初期、中央線開通後の上松駅周辺)

上松宿探訪

至福島宿へ

【沓掛 一里塚】
江戸より71里
京へ66里

【本町 一里塚】
江戸より72里
京へ65里

【荻原 一里塚】
江戸より73里
京へ64里

【倉本 一里塚】
江戸より74里
京へ63里

国道19号線

JR中央線

倉本駅

上松駅

【木曽の棧】…木曽八景 棧の朝霞

「碓氷峠に太田の渡し」と並んで中山道の三大難所の一つとして旅人に怖れられた場所。かつては長い棧橋で、松明による焼失や落石などが旅人の命を奪ったと伝えられます。

1600年代の半ば、尾張藩によって改修され、頑強な石垣造りになりました。この地を旅した松尾芭蕉により、改修以前の危険な様子が「かけはしや 命をからむ つたかづら」と詠まれています。

現在は国道の下にあり、対岸から江戸時代・明治時代の石垣が見られます。近代でも落石の危険があることから、この難所を避けるため国道のバイパス化工事が進んでいます。

【上町 宿場跡】

昭和25年に地域一帯を焼き尽くした「上松大火」から、唯一焼け残った地区です。この火事では615棟が焼けましたが、奇跡的に死者はありませんでした。

【寝覚 宿場跡】

かつて旅籠があった個所です。大名が泊まり高札を掲げたという「立場跡」とも呼ばれ、臨川寺に至る山門の基礎石が残ります。

【寝覚の床】…木曽八景 寝覚の床の夜雨

中山道時代から現在まで、木曽街道のランドマークとなっている名勝。木曽川の激流が花崗岩を削り、永い年月をかけて現れたものです。浦島伝説が残る、奇岩の上に浦島堂があります。

川岸の美術公園には、臨川寺境内(要拝観料)、木曽路美術館、上松町営駐車場の3つのルートから下りられます。

【木曽駒ヶ岳】…木曽八景 木曽駒の夕照

標高2956m、日本100名山のひとつに数えられ、御嶽山・乗鞍岳とともに木曽三名峰を形成します。

東部にあるにもかかわらず夕刻の姿を愛でられるのは、積雪が進んだ白い姿に夕陽の紅色が美しく映えるため。その彩りは、日没のほんの瞬間に楽しめます。

上松町には3つの登山コースがあり、上松Aコースは英国人ウォルター・ウェストンが登頂したことでも知られます。

【風越山】…木曽八景 風越の青嵐

標高1698m、典型的な里山のひとつで、ワンデイハイクに訪れる利用者もあります。

酪農が盛んな頃は、牧草を刈るための大切な場所でした。青々と広がる草原を夏の風が吹きわたる風景が風物詩でしたが、酪農家が減った現在、その名残は山頂付近のカヤの原に見られるのみとなっていました。近年、景観の再生事業が始まっています。

【小野の滝】…木曽八景 小野の瀑布

国道のすぐ側にみられる、高さ約15mの名瀑です。現在はJRの橋脚に挟まれています。中山道時代は橋脚の付近に橋が架かり、流れ落ちる清流を間近で楽しめたようで、その道筋の痕跡は土地を記した公図にも残っています。

歌川広重と溪斎英泉が記した浮世絵「中山道六十九次」では、上松宿がこの滝の姿で描かれており、寝覚の床にある木曽路美術館にも保存されています。

…正確な道路地図、各地の伝承などは、上松町総合パンフレット「旅する」を併せてご参照下さい。

上松観光開発有限公司

ねだめホテル：0264-52-2245

至須原宿へ